

かわら版すげ

2008年1月
市議会報告
日本共産党
市会議員
井口まみ

(発行)
日本共産党市会議員団
川崎市川崎区宮本町1
電話 200-3360
FAX 245-4140
<http://www.iguchi-mami.jp>
メール: mail@iguchi-mami.jp

川崎の水道水 市内唯一の水源をなくしてよいのか

井口議員、12月議会で質問

川崎市が昨年作った「川崎市水道事業再構築計画」では、菅や中野島の地下水をくみあげ、多摩区のほぼ全域に飲料水を供給している生田浄水場を廃止することがもりこまれています。これは市内唯一の自己水源をなくすことです。井口まみ市議は、十二月議会の一般質問で「川崎の水道をこれからどうするかは、もっと市民の意見を聞くべき」と水道局長をたどしました。

生田浄水場をなくしたら 水源はすべて遠いところに

川崎の水道の水源は3つ。そのうちの二つは川崎市独自の自己水源で、ひとつが相模湖。川崎まで三二kmあります。もう一つがこの菅を中心とした井戸でくみ上げている地下水です。あと一つは県、横浜市、横須賀市と川崎市が共同出資して設立した「神奈川県内広域水道企業団」の飯泉取水堰で、酒匂川下流から川崎まで五六kmの遠い水です。井戸をなくし生田浄水場を廃止すると、川崎市民の飲料水はすべて遠いところから送ってこなければならなくなり、万一の災害時対応が懸念されます。井口市議が「自己水源を維持すべきではないか」とたずねると、栗冠水道局長は「地下水も含めて自己水源は重要。地下水も非常時の飲料水として活用す



昨年12月議会で質問する井口まみ市会議員

る」とこたえました。非常用として活用するということは、廃止してはいけないということを示しているのではないのでしょうか。

なぜ生田浄水場の廃止なのか

水道局長は生田浄水場の廃止の理由を「より効率的で効果的に水源を確保するため」とこたえました。しかし、本当の理由は、企業団から買っている水があまっているため、自己水源をなくして水の量を調整するためなのです。企業団の水のほとんどは一九六九年以来ずっと臨海部の大企業が買ってきた。しかし大企業が、もういらぬというので、長沢浄水場を改築して、企業団の水を飲料水にしてその料金も市民が払うように体系を変えようというのが「再構築計画」の内容です。

井口市議は「企業団も経営を見直して、全量を買って続けることが前提でなくなる可能性もある。川崎の水道をどうするのか、もっと市民の声を聞くべき」とたずねましたが、水道局長は「再構築計画の内容をホームページなどで広報し、理解を得たい」と答えたばかりでした。

川崎の水道水は どうしておいしいのでしょうか？

「川崎の水はおいしい」と評判です。それは水源がきれいなのが一番の理由です。水源のひとつ、相模湖からは二つの導水トンネルを通して、長沢浄水場（多摩区）と潮見台浄水場（宮前区）に送っています。



原水には自然の泥が混じってかなりにごっています。原水は、まず沈殿池に送られ、大きな泥の粒子を沈めて上澄みを「フロック形成池」に行きます。水にPAC（ポリ塩化アルミニウム）という薬を入れると、泥の細かい粒子をひきつけて大きな粒子になって取り除かれ、水はどんどん澄んでいきます。

これで濁度は国の基準をクリアできるのですが、さらにきれいにするために、ろ過池に行きます。細かい砂の層をとおすことで、濁度は0.1度以下になります。

この水に最後に塩素を入れて、家庭へと送られます。水道水は家庭の蛇口で塩素の残留率が最低0.1%はなければならぬと法律で決められているため、最小限の塩素はどうしても必要なのです。長沢浄水場の特徴は、これらのすべての行程を自然流水で行っていて、ポンプを使う電気代がほとんどか

かりません。

相模湖から取った水はこれで処理が終わりますが、水がもっと汚いと、活性炭を入れて臭いや汚染物質を取り除いたり、もっといろいろな薬品を入れて高度処理をしなければいけません。この高度処理には莫大なコストがかかるというわけ、他都市ではそのために大幅な料金値上げもあったそうです。企業団の水は、酒匂川や相模川の下流が原水のため、飲料水の受け入れにはこの懸念が生じます。

いっぽう、水がもっときれいであれば処理の過程が減ります。それが生田浄水場です。地下水を井戸から取っている生田の水は、泥がまじっていないので、沈殿池がいらず、ろ過池だけあればいいのです。地下水はミネラル分もあり、川崎市では簡単なろ過だけでペットボトルで売っているほどです。多摩区の水はおいしいといわれている川崎の水の中でも、もっとおいしい水なのです。



水道局が販売している水「生田の天然水（めぐみ）」多摩区では民家園等4か所で売っています。

南菅中図書館で地域貸し出ししていますが…

本来の図書館整備をするべきです

12月議会で
質問しました

昨年七月から、南菅中学校の図書館では土曜日に一般向けに図書を貸し出ししています。学校図書館を使つての貸し出しがどうなのか、実際に図書館を見学して、感じたことを議会で取り上げました。

学校図書館に間借り？
現在、市内三校で学校図書館に大人向けの本を置いて、地域に貸し出しを行っています。多摩区では南菅中学校が行つて



いると聞いて、実際に運営をしてる運営委員会の方に現地で話を伺いました。本は、学校の本とは別に予算をとつて購入し、地域貸し出し専用として置いてあります。購入する本の選定は運営委員会で行うので、いま話題の本が沢山あります。しかし、平日は中学生も借りていくことはできず、また、学校図書館の本は一般の人は借りることはできず、このコーナーだけが貸し出しの対象で、毎週土曜日の十時から二時、運営委員が交代で当番をしています。

また、学校の本を貸し出すことも難しいとのことでした。

図書館の整備は独自に

教育長は「この事業を他の学校にも広げたい」とこたえましたが、井

これ以上本を増やすスペースがなく、ダンボールに並べられてました。(写真)間借りをしているようで、肩身が狭い感じがです。

図書館のかわりではない

井口議員が議会でこの事業の目的を質問すると、木場田教育長は「学校施設の有効利用」「地域開放事業の一つ」とこたえました。つまり、これは地域の図書館という扱いではないということ。図書館であれば、もっと本を増やし、さまざまな

口議員は「身近なところで本に親しめるのは市民の要求だが、いま、学校図書館の本自体が少ないと問題になっている。本来整備すべき地域の図書館を、なし崩し的にこれで代用させることがあってはならない」と、安易なやり方を指摘しました。

南菅中では、まだ利用も少なく今後を模索しています。昔には、京王の駅前に普読所もあり、その使い勝手も含めて、みんなこれからのあり方を考えていくべきではないでしょうか。



運営委員会が出しているチラシ

神奈川県は県立の全日制高校の定員を、中学卒業予定者の六割にしています。あとの四割は私立に行くようにするためです。しかし、お金がなければ私立にはいきません。公立を志望して、全日制に合格できず、定時制を受ける生徒が毎年増え続けています。

希望する高校に入学できるように「修学資金」制度の周知を市議会議員 井口まみ

我が家にも受験生がいますが、「県立は誰が落ちるかほとんどに分らない。心配でたまらない」と苦しい中三の胸のうちを語っています。県立高校の定員を増やすこと、私学の授業料を下げさせることが必要ですが、これはおもに県の仕事。川崎市ができることは、お金の心配をしなくて希望する学校に入学できる条件を整備することだと思えました。

に合います。しかし、申し込んでから実際にお金が出るまでに一ヶ月近くかかるため、合格してから申し込んだのでは間に合いません。そこで、進路指導のなかで、早い時期に必要な生徒にこの制度を紹介するよう、教育委員会と健康福祉局に強く要望しました。この資金は公立でも、大学でも利用できます。詳しいお問合せは、多摩社会福祉協議会（丸九三五〇〇）まで。一人でも多く、希望する進路に行かれますように。

小沢城址の景観を守れ！ 市議会環境委員会で陳情が「採択」

「昔のふるさと」小沢城址の尾根から北側が開発され、すっかり木がなくなつてしまいました。所有者である榎よみうりランドが、道路をつくるために木を伐採したのです。

「大好きな小沢城址に行つても、なんだか悲しい」という声があがり、川崎市議会の環境委員会に「榎よみうりランドに、木を植えるように要請してほしい」という陳情署名が寄せられました。短期間に四〇〇名という署名が集まりました。

工事が始まる前の昨年四月と、実際に木が伐採された九月、十一月と三回にわたつて現地を見てきた井口まみ市議も環境委員会に所属しており、審議でも「尾根から北側の景観がなければ、本来の特別緑地保全地区とはいえない」と保全の必要性を主張しました。

川崎市は榎よみうりランドと協議し、「尾根から一〇mは木を植えてもとの景観を復活させる」「道路建設後の土地利用にも緑地を増やす」と約束したと答弁。委員会は全会一致でこの陳情を「採択」しました。これで、川崎市はこれからの経過にも責任を負うことになります。



稲城市側はすっかり丸裸に。向うの森が小沢城址。